



今回のテーマ

防災の日 ～関東大震災の教訓を忘れない～

今回のテーマでは、防災の日にちなみ、関東大震災の被害状況や復興の取組を紹介するとともに、防災力の強化に向けて各地で実施されている様々な取組についてご紹介します。

「防災の日」とは

9月1日は「防災の日」です。

この日は関東大震災が発生した日であり、台風シーズンを迎える時期でもあることから、防災への心構えを準備するという意味で「防災の日」が創設されました。

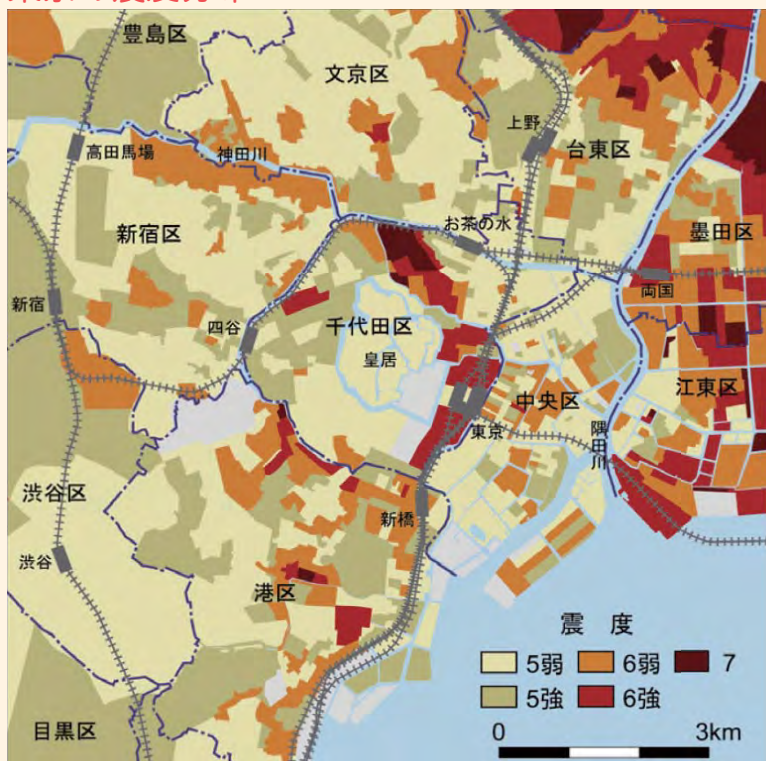
また、「防災の日」を含む一週間は防災週間と定められ、各関係機関が緊密な協力関係のもとに、防災思想普及のための行事や訓練などを行っています。



関東大震災を振り返る ～震度分布と被害概要～

1923 年（大正 12 年）9 月 1 日、午前 11 時 58 分、相模トラフを震源とする M7.9 の大地震が発生し、現在の墨田区や江東区の大部分で震度 6 弱以上を記録しました。それに伴い、多数の死者や建物被害が発生しました。

東京の震度分布



出典：内閣府中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会「1923 関東大震災報告書」
東京市の町丁目別震度分布（武村、2003 に基づき作成）

死者・行方不明者数（人）

	神奈川県	東京府	千葉県	埼玉県
住家全潰	5,795	3,546	1,255	315
火災	25,201	66,521	59	0
流出・埋没	836	6	0	0
工場等の被害	1,006	314	32	28
合計	32,838	70,387	1,346	343

建物被害（棟）

	神奈川県	東京府	千葉県	埼玉県
住家全潰	46,621	11,842	13,444	4,759
住家半潰	43,047	17,231	6,030	4,086
焼失	35,412	176,505	431	0
流出・埋没	497	2	71	0
合計	125,577	205,580	19,976	8,845

出典：内閣府中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会「1923 関東大震災報告書」
関東地震による住家被害棟数および死者数の集計（諸井・武村、2004 より引用）

崩落した鉄橋（墨田・吾妻橋）



中央区京橋周辺

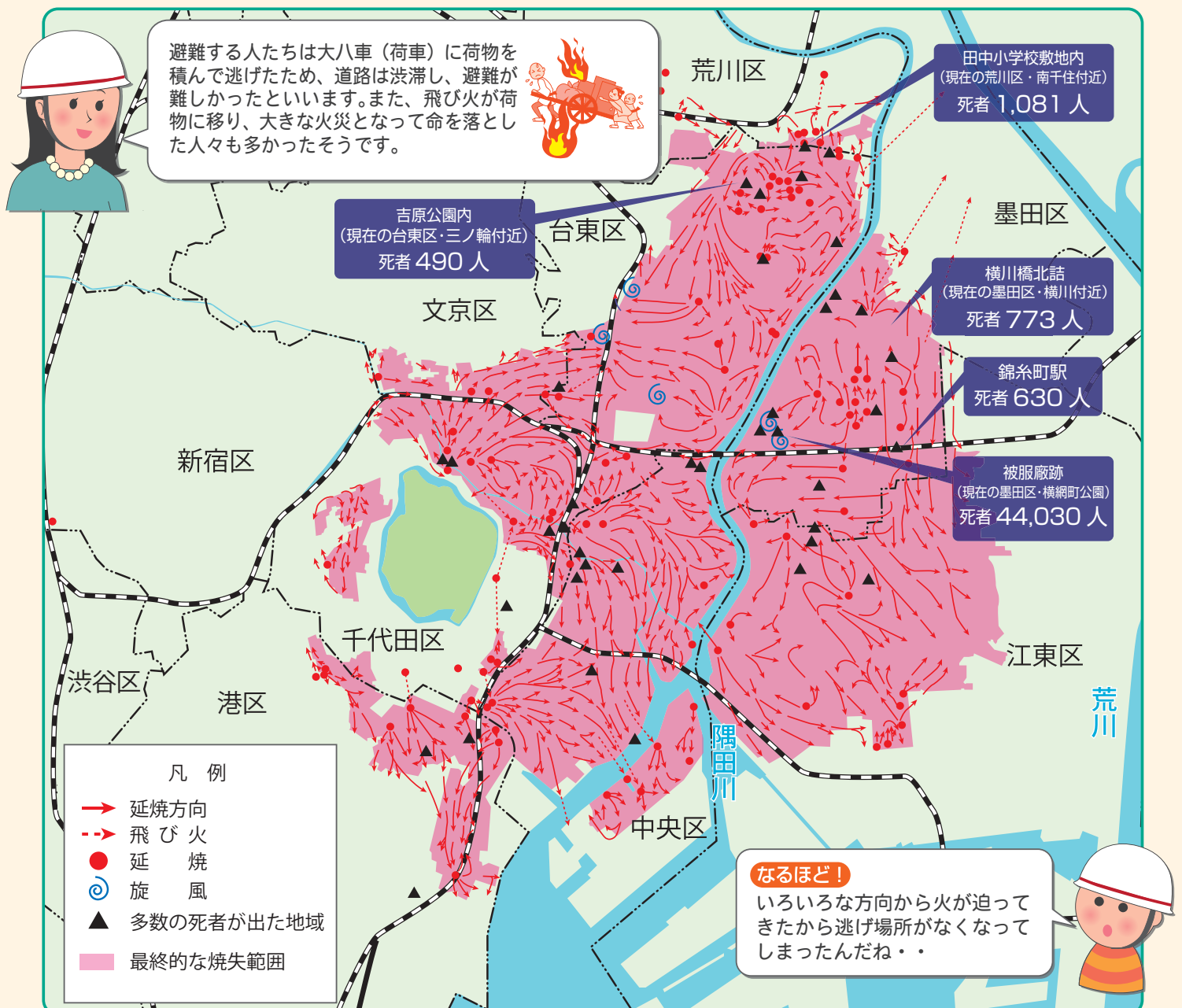


写真出典：東京都慰霊協会提供

関東大震災を振り返る ～火災による被害～

関東大震災の被害の特徴は『火災』です。地震発生時間の午前11時58分は、昼食準備のために火を使っていた家庭が多く、建物倒壊により火災が同時多発的に発生しました。地震直後から発生した火災は、特に東京市（当時）で被害が大きく、一部は大規模火災（旋風）となり、46時間も延焼が続きました。

延焼動態図（火災の燃え広がりかたを示したもの）



※地図は現在のものを使用

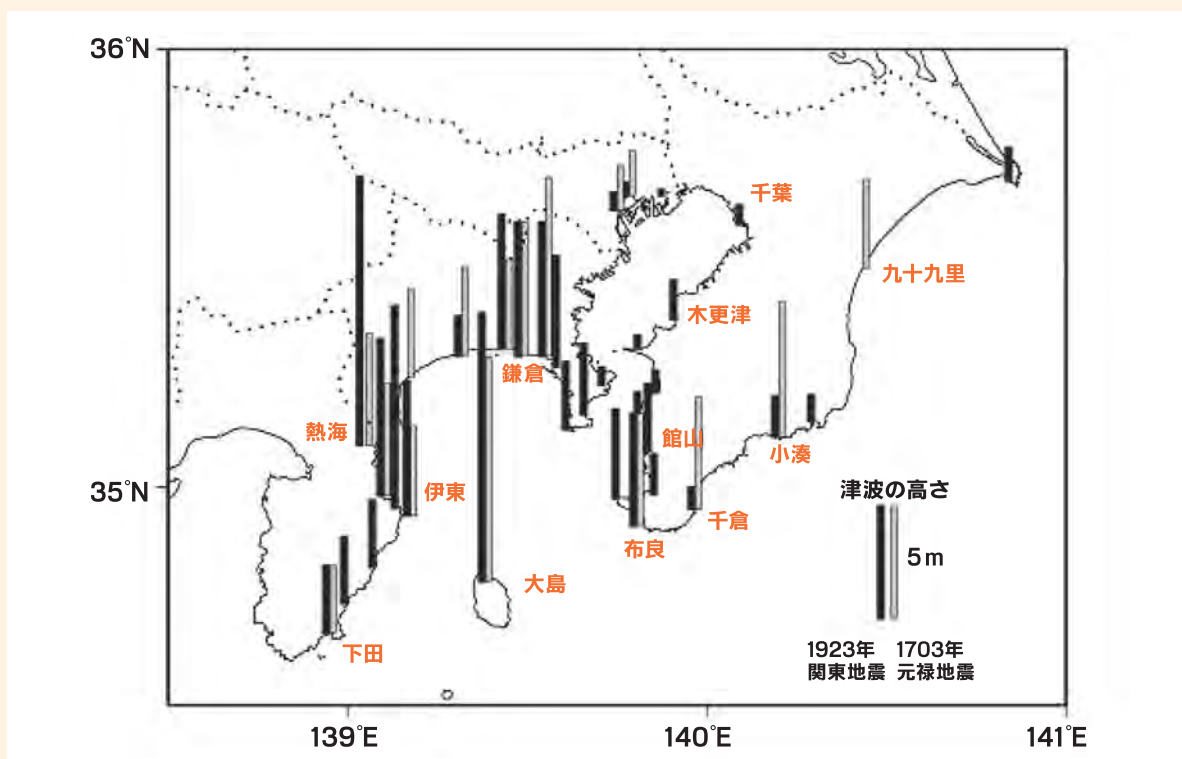
出典：東京都慰霊協会提供「延焼動態図」
内閣府中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会「1923 関東大震災報告書」、「災害史に学ぶ」海溝型地震・津波編

関東大震災を振り返る ～津波の発生状況～

関東大震災においても、津波災害が発生し、200～300人の犠牲者が発生しました。

特に、関東大震災は震源が陸地に近かったため、地震後5分程度で津波が来襲しました。

1923年関東地震、1703年元禄地震の津波高さの分布



出典：内閣府中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会「災害史に学ぶ」海溝型地震・津波編



伊東町内の大川橋まで押し上げられた漁船
(撮影者不明、伊東市蔵)



鎌倉における被害。
霊山崎から由比ヶ浜方面を望む
(鎌倉市中央図書館蔵)

写真出典：内閣府中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会「1923 関東大震災報告書」

関東大震災を振り返る ～避難地となった公園～

関東大震災直後、公園は避難地としても大いに役立ち、地震直後には東京市の公園に 160 万人余りの人々が避難しました。



日比谷公園に逃げ火災を見る避難者



上野公園の避難者



芝公園の避難者

震災直後の避難地調査

(大正 12 年 9 月 1, 2 日)

公園・広場名	避難数(人)
皇居外苑	300,000
日比谷公園	150,000
富士見町公園	56,800
東京駅前広場	30,000
虎ノ門公園	30,000
清水谷公園	30,000
麹町公園	30,000
土手公園	10,000
千鳥ヶ淵公園	3,000
半蔵門前広場	3,000
浜離宮	50,000
芝公園	200,000
小石川植物園	80,000
上野公園	500,000
浅草公園	100,000
横網町被服廠跡	50,000
清澄庭園	10,000
計	1,633,800

資料：『日本公園百年史』日本公園百年史刊行会

関東大震災からの復興に向けた取組 ～帝都復興事業(東京に関する事業)の内容～

焼け跡の区画整理を中心に、道路や公園等の都市施設が建設されるなど震災復興事業が進められました。



関東大震災からの復興に向けた取組 ～復興の成果～

帝都復興事業では、区画整理事業により近代的な街並みや公園等が整備されました。そのほか、様々な公共施設やインフラが整備されました。



鉄筋コンクリート造の小学校(東京市立千代田小学校)



市民の生活に密着した中央卸売市場(築地市場)



隅田川の橋梁

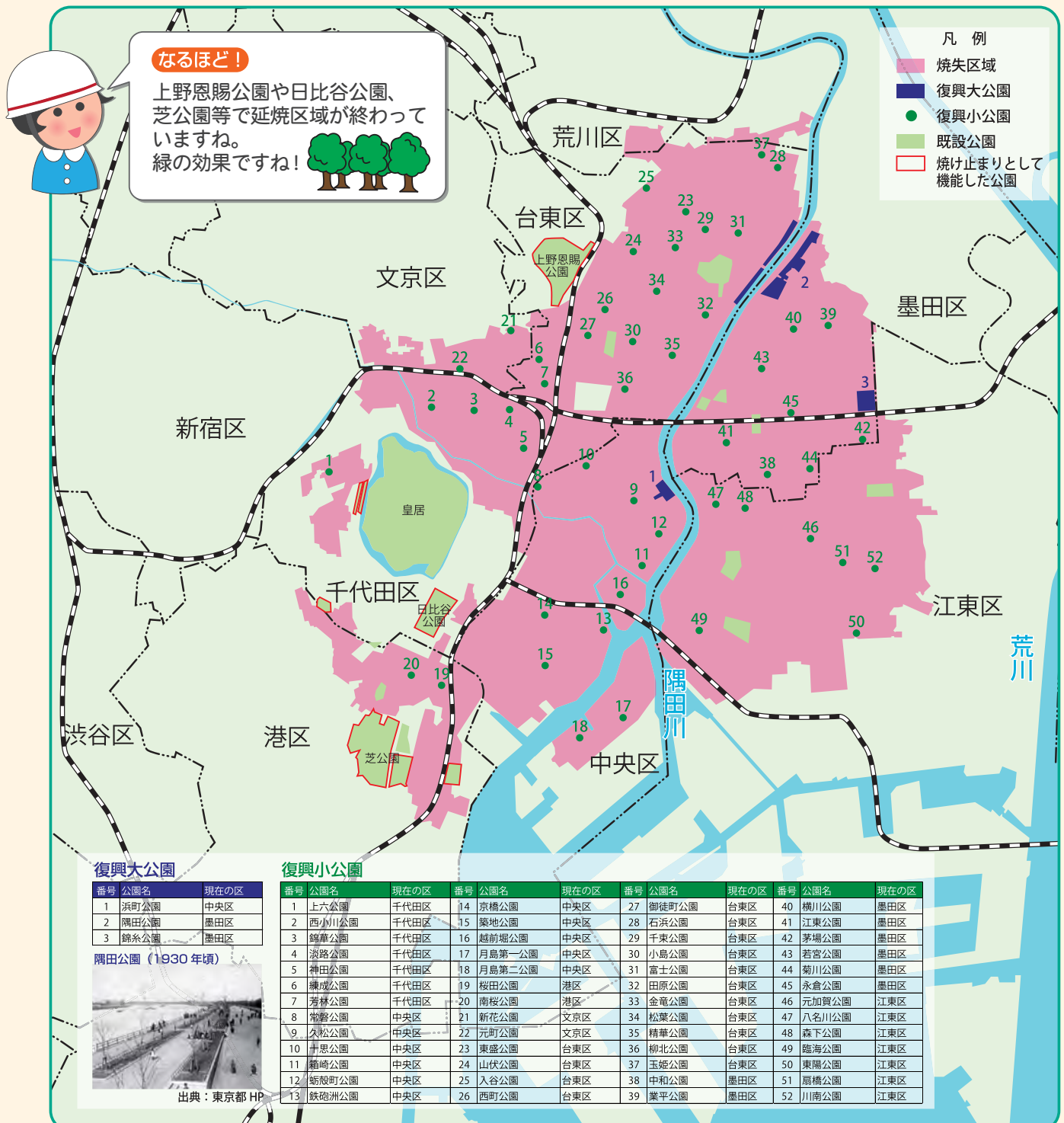


横浜市の山下公園(震災時のがれきを埋め立て、造られた)

関東大震災からの復興に向けた取組 ～復興と公園～

火災発生時に公園や緑地が延焼を止めた効果から、復興事業においても多くの公園が設置されました。

関東大震災で焼失した地域と復興公園



※上記は焼失区域を現在の地図に当てはめたものです

出典：東京都慰霊協会提供「東京市公園の復興」

関東大震災からの復興に向けた取組 ～復興で整備された都内の公園（大公園）～

当時の内務省により、東京では3つの近代的な大公園が整備されました。



隅田公園（墨田区・台東区）～隅田川兩岸のリバーサイドパーク～



開園当初



現在



開園当初の隅田公園（リバーサイドブロムナードに墨堤の桜の伝統を受けついだ向島側河岸は、一躍東京都名所として絵葉書になった。）



浜町公園（中央区）～劇場そばの西欧スタイルの公園～

開園当初



現在



隣に明治座のある入口から並木のプロムナードが真っ直ぐ園内へ



錦糸公園（墨田区）～工場地帯のスポーツ公園～

開園当初



現在



開園数年後につくられた野球場での試合風景

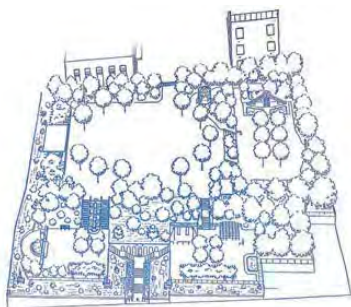
関東大震災からの復興に向けた取組 ～復興で整備された都内の公園（小公園）～

復興事業では、コミュニティの中心施設として、復興小公園が52箇所では整備されました。

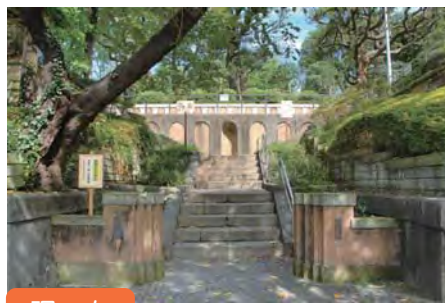


元町公園（文京区）

施設の一部が残る公園は他にもありますが、空間全体が残されているのはここだけです。隣にあった旧元町小学校は廃校となり、現在は病院の保育所となっています。



開園当初



現在



開園当初



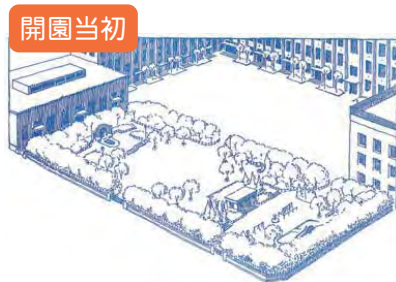
現在

カスケード（階段上の小滝）



元加賀公園（江東区）

木立の向こうが元加賀小学校。開園当初からの壁付き噴水（壁泉付露床）が残っています。



開園当初



現在

防災の日における様々な取組

「防災の日」及び「防災週間」には、防災知識の普及のための講演会、展示会等の開催、防災訓練の実施、防災功労者の表彰等の行事が、内閣府や地方公共団体その他関係団体等により、全国的に実施されています。

「防災の日」：毎年9月1日

「防災週間」：毎年、8月30日～9月5日までの期間
(昭和58年以降)

防災の日及び防災週間における近年の取組

首都圏での大規模訓練

九都県市合同防災訓練

九都県市が実践的な合同防災訓練を実施し、九都県市相互の連携協力体制の充実・強化を図るとともに、住民一人ひとりの防災知識や減災への備えの向上を目指します。

主催：埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・横浜市・川崎市・千葉市・さいたま市・相模原市

後援：内閣府政策統括官（防災担当）

第34回九都県市合同防災訓練の様子（千葉市）



市民による初期消火訓練



火災防御活動訓練



応急給食（炊き出し）訓練



ヘリコプターによる
中・高層建物からの救助訓練

写真出典：千葉市総務局防災対策課 HP

防災活動の普及に向けた取組例

防災モーターショー

消防車・救急車・dERU車（緊急仮設診療所）・特殊災害対策車などの展示、記念撮影 ほか



救命体験

AEDや心臓マッサージ講習 ほか



非常食の紹介

非常食の展示や試食、災害時における栄養バランスのとれたレシピの紹介 ほか



防災ポスター、パネルの展示

「防災ポスターコンクール」の応募作品の展示や、防災の知識や過去の災害等を紹介するパネルの展示



防災の日における様々な取組 ～九都県市合同防災訓練～

首都圏（九都県市の地域）には、総人口の約4分の1（約3,500万人）の人口を擁し、政治・経済などの中枢機能が集積しています。「首都直下地震」や「東海地震」等の発生による被害を最小限に食い止めるため、九都県市合同で防災訓練を実施しています。

※九都県市：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市

第35回九都県市合同防災訓練 相模原市会場の様子

平成26年度には、防災の日及び防災週間の期間中、相模原市（神奈川県）を中心に各地で防災訓練が実施されました。



多重事故車両からの救助訓練



被災高層建物からの救助訓練



ヘリコプターによる負傷者の搬送訓練



野外手術セットを利用した医療救護訓練



災害時にも頼もしい「働くクルマ」の展示



いざという時に役立つロープ結び体験



平成26年度 東京都・杉並区合同総合防災訓練が実施されました。

8月30日（土）、そなエリアのある東京臨海広域防災公園は、九都県市合同防災訓練の東京都サブ会場となりました。

今年は、杉並区との合同訓練が同時に実施され、ヘリコプターで本公園に運ばれた緊急支援物資を杉並区まで搬送する輸送訓練が行われました。



防災の日における様々な取組 ～ぼうさいモーターショー～

9月7日(日)、東京臨海広域防災公園に、災害活動用車両や自衛隊車、消防車などが勢ぞろいしました。



照明車(国土交通省)



軽装甲機動車(自衛隊)



高機動車とトウチ君(自衛隊)



特殊救難隊3号車(海上保安庁)



消防車(米海軍日本管区司令部消防隊)



ポンプ車(深川消防署有明分署)



パトカー(東京湾岸警察署)



白バイ(東京湾岸警察署)



スノーブラウ付散水車(国土交通省)



車のほかにも・・・

消火体験やソーラークッキングの紹介、移動式子ども基地など、防災について学ぶイベントがもりだくさんでした！



水消火器を使用した消火体験



ソーラークッキング



移動式子ども基地